

河口の地形の変化

■河口の砂の減少

Fig.1は1月の七北田川河口，Fig.2は7月の七北田川河口である。Fig.1の黄色で囲んだ部分の砂がFig.2ではなくなっている。砂の堆積作用より浸食作用の方が6月から7月にかけては強かったと思われる。6月までは赤で囲んだ部分でイシガレイの稚魚を採集していたが，7月はFig.2の矢印方向へ50mほど先で採集された。過去にも砂の堆積により河口が閉塞する(レポートNo.18参照)，現在の位置より北側に新たな河口が開くなど地形の変化が続いてきた。東北地方太平洋沖地震により沈降した蒲生干潟付近は，現在は隆起に転じている(国土地理院発表資料より)。このような変化は生物の生息環境に多大な影響を与えて行くであろう。



(Fig.1 2016年1月の七北田川河口)



(Fig.2 2016年7月の七北田川河口)

■地形の変化の影響

今回の調査で採集された稚魚はTable.1のように数が少なかった。過去5年の調査では8cm程度に成長した個体が外海へ出て行くと思われ，成長して外へ出た可能性は低い。地形の変化により稚魚が減る，もしくは散らばってしまい採集できなかった可能性がある。また，砂が浸食されたことにより通水部分の河口と干潟内の落差が大きくなったため稚魚の移動が妨げられ干潟内の数が少なかった可能性も考えられる。

	河口域	干潟内
7月の採集数	11匹	3匹
6月の平均全長	3.79cm	4.50cm
7月の平均全長	5.82cm	5.67cm

(Table.1 採集数と平均全長)